CLA Award 2026

奨　励　賞



防潮堤から全体をのぞむ

大槌町鎮魂の森あえーる

株式会社総合設計研究所
大瀧英知・大石佳奈・加藤雄介
株式会社プレック研究所
酒井学（元社員）・宮脇侑子

大槌町鎮魂の森あえーるは、東日本大震災の犠牲者に対する「追悼・鎮魂」とともに、震災の記憶と復興への想いを未来へ伝えるための場である。

計画では、遺族や町民の声を丁寧に拾い上げ、静かに祈る「追悼の場」と、日常的に人々が集い憩う「復興の広場」を一体的にデザインする方向性を定めた。

芳名碑、献花台、地域の湧水を表現した水盤を祈りの核とし、人々が集い憩う芝生広場や、大槌町の郷土樹種による森、仮設住宅で人々の心を支えた地蔵尊を配置した。芳名が広場を見守り、広場で過ごす人々が自然に追悼の場の存在を感じられる「茶の間の仏壇」のような空間とした。

また、園内を巡りながら震災の記憶と教訓を学べる構成とし、植樹や育樹への町民参加を通じて、森を育てながら記憶を次世代へ継承していく、祈りと日常が共存する場を目指した。

作品概要

作品名―― 大槌町鎮魂の森あえーる
所在地―― 岩手県大槌町須賀町
発注―― 岩手県大槌町
設計―― 株式会社総合設計研究所（基本設計・実施設計）
株式会社プレック研究所（基本計画）
設計協力―― AL建築事務所、YUTO YAMADA DESIGN STUDIO
株式会社 nosight
設計期間―― 2017年11月～2021年3月（基本計画）
2021年9月～2023年6月（基本設計・実施設計）
施工期間―― 2023年7月～2025年6月
規模―― 約1.5ha
主要施設―― 追悼の場（芳名碑、献花台、水盤）、復興の広場（芝生広場、ベンチ）、
地蔵尊の森、暮らしの森、トイレ

作品評

本作品においては、追悼、鎮魂というセンシティブな側面をもつ計画、設計を進めるにあたり、各方面の専門家によって構成される検討委員会による審議や助言、また、住民ワークショップ、パブリックコメント、あるいは遺族アンケートなどの実施によって丁寧に町民の意見を拾い上げている。

祈りの核となる追悼の場においては、その構成要素となる芳名碑、献花台などを非常に細やかな心配りと遺族・町民の心情に寄り添った設計を追及していることが読み取れ、評価のポイントとなった。

他方、空間構成の重要な要素となっている記憶の森、花の森などに関する植栽計画についての説明が十分とはいえない。樹種構成が低木のみで森と呼ぶにふさわしい環境となるのか、将来的に安定した樹林を形成するのに十分な広がりや植栽密度、あるいは管理が担保されているのか、といった懸念材料も散見された。きめ細やかな設計手法が、植栽計画においてもしっかりと踏襲されていることが理解されるような提示がなされていれば、より高い評価となったと思われる。